



2015年2月15日 発行

2015年冬号

<第29号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/池田由樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 info@works-union.org http://works-union.org/tyori.html

僕の思い出

グループホーム旅行で、北海道 トワイライトエクスプレスという寝台特急の旅。今年で列車がなくなるので、切っぶがなくなかなか手に入らなくて……。その切っぶがようやく取れて、ほっとしました。

さて、トワイライトエクスプレスの車内。のんびりゆったりと思ったら実は寝られなかった。(慣れない列車の旅で) トホホ。

2日目の10時すぎ札幌着。昼からは札幌のJRタワー。大倉山、羊ヶ丘バスツアーめぐりと楽しんできました。

そして3日目。札幌市内でさんさくの後、新千歳空港から全日空機で大阪・いたみ空港着。その後、難波で解散して帰ってきました。本当に疲れました。

友本 義弘

生涯を支えるために

我々ワークスユニオンは何故、新しい事業所を立て続けに創ったのか。きつかけは、65歳を迎えようとする利用者さんが、すぐ目の前にいたからだ。

彼らの願いは、今いる事業所・住まいで仲間と過ごし続けることであり、その為には、障がい福祉サービスを利用してもらうことが前提にあった。

しかし、ある区役所に、もう少し65歳になる利用者さんを、今いる事業所や住まい(グループホーム)に通える、住み続けるようにしたいということを相談に行った時、その区役所の職員が言った言葉に耳を疑った。「基本は、65歳になられた方は、介護保険の利用になるので、今の事業所やグループホームは利用できません。」というのだ。また、「介護保険適用の住まいや事業所は探されましたか、探してみなければ、その人に合うかどうかは分からな

今いる事業所・グループホームで、今いる仲間たちと、出来るだけ長く暮らせるように、事業所・グループホームを創造していかなければならぬと思っ

がなく、利用者さんの特性に応じて空間を分けることができる、そんな所を探していた。

「匠」を造ったばかりで迷ってはいたものの、なかなか良い物件に巡り合うことは難しい事を感じていたので、無理を承知で保護者さんに相談した。物件を見て、すぐに気に入って、生活介護事業所「和」を創ることになった。

「匠」ができ、利用者さんの笑顔が飛び交う中、職員や保護者さんたちも、広い空間で作業や活動をする姿をみると、改めて空間の大切さを感じていた。

そんな中、他の事業所も、もっと広い場所が欲しいと言う声も出てきた。「匠」を造る時に、物件探しに時間がかかったこともあり、何かの不動産屋に依頼し、物件を探し始めていた。そんなにも経たないうちに、「匠」を紹介された業者から、「新しく出たばかりで、場所広さ共に申し分のない物件がありま

す。」と声をかけられた。利用者さんが、「ここにいて楽しい。」「ここにいたい。」と思えるように、今何が必要なのか、この先何が必要か、日々悩み創造し、支援していきたいと思っ

生活介護事業所を造るにあたって、第一に考えたのは、環境面であった。広さは100㎡以上で平面。年を取っても、車椅子でも、誰でも過ごせる空間。段差

それぞれの變化

◆「匠」は二年前に就労継続支援B型から、生活介護へサービスを移行すると同時に、場所も移転し建物も広くなりました。その事で、スペースの狭さからくるトラブルは以前より減少しています。

利用者Aさんは、普段は優しく陽気な人なのですが、苦手な声を出したり、拘りの強い利用者さんに対してイライラしてしまい、衝動的に暴力を振るう事が以前からありました。その為、他の利用者さんと一緒に過ごすことが難しく、長い間「匠」近くのボルト会社にスペースを借りて、一人で作業を行っていました。

しかし、「匠」の移転に伴い、職員の体制が手厚くなることや、空間が広がること、本人に対する関わり方を考えることで、集団の中で過ごせるのではないかという結論に至りました。

移転後は、Aさんがイライラしてもすぐに介入できる体制や、作業以外の活動内容が増えた事、空間が広くなり、苦手な利用者さん

に対して、距離を置いて見ることができるようになり、トラブルも少なくなり、みんなと一緒に過ごしたくても、一人で過ごさざるを得なかった頃から考えると大きな変化です。

苦手な事があっても、それを無くそうと考えるのではなく、対人面、物理面でどう環境を変えれば、利用者さんが過ごしやすいのかを常に考える必要があると思います。(横田)

◆ワークス集を二分化し、ワークス翔の様子をお伝えしましたが、ワークス集も実利用者の人数が半分程となり、利用者さんの様子にも変化が見られました。

建物はそのまま、人数だけが減ったことにより、空間に余裕があるように感じられるだけでなく、利用

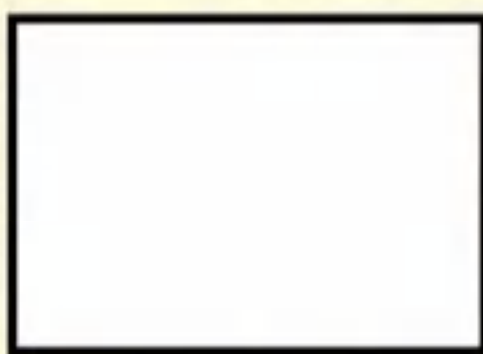
者さんそれぞれに気持ちにも余裕が出てきたように思われます。

限られた空間の中で工夫はするもの、お互いの距離が近いので、気になってしまふ。また、昼食時でも、苦手な人と距離を取りたいが、席が埋まっていて、時間をずらさないといけない。我慢はするものの、その我慢が時には爆発してしまうこともありました。

一つの部屋を静養室とし、しんどいときなどに横になつたり、ソファアで職員とゆっくり話したりと、作業場や食堂とは別の空間で、落ち着くことができるようにもなりました。

現在ももちろんすべてがうまく行っている訳ではないですが、以前に比べるとかなりお互いを認め合い、お互いで距離や話し方を工夫しているように伺えます。自分の気持ちを素直に出し過ぎて周りの人を気遣うことが難しい人、逆に自分の気持ちをうまく出せずに

我慢してしまう人。それぞれが気持ちよく過ごせる環境(空間)が必要だと感じています。(岩本)



◆今年度より、居宅介護サービスを利用して一人暮らしを始めた利用者Bさん。

「いつかは一人で暮らさないといけない」という母親の言葉と、それに応えようとす本人の気持ち、「Bさんならひとり暮らしができる」という職員の思いが合致して始まりました。

これまで、短期生活体験など経験があったためか、移行もスムーズで、挑戦する意欲を感じましたが、自分の思うように出来ないこ

とやひとり暮らしの寂しさがあつたと思います。

実家ではやったことのない洗濯にも、自らチャレンジしましたが、脱水が完了する前に中身を取り出してしまい、部屋が水浸しになることも。また、衣類を乾燥させて収納してしまうことがあり、現在は職員が洗濯と収納の支援をしています。寂しさから早朝に、母親の携帯へ幾度も電話をかけてしまうことがありましたが、秋になると、いつの間にか携帯電話を実家に置いてくるようになり、今では週末に実家に帰るまで母親のことは口にせず、一人暮らしを楽しんでいます。

彼がチャレンジしたこと全てが成功ではありませんが、本人なりに新しい環境に適應しようと一生懸命過ごした結果だと思えます。環境が変わることで乗り越えないといけないこともあります。職員と一緒に考えていけば良いのではないかと思います。(高橋)



私自身も変わり者なのか
もしれないが、ワークスユ
ニオンの利用者さんたち
も、とても個人的で独特な
拘りを持っている人も多い。

毎日、数時間散策をして
こなければ落ち着かないA
さん。

数か月分の日用品の在庫
を常に抱えていなければ不
安なBさん。

ヘルパーさんと部屋の整
理をしても、数時間後には
元の木阿弥で、部屋の内は
足の踏み場もない状況とな
ってしまうCさん。

お医者さんには、いつも
注意されているのに、嗜好
品をやめられないDさん。

朝部屋を出るときに、必
ずエアコンを付けたままに
するEさん。

自分の部屋の消耗品がな
くなると、共用の物を持ち
帰ろうとするFさん。
などなど、枚挙にいとま
がない。

職員たちは、時に小言も
言うが、一人ひとりの利用
者の独特な個性や拘りに合
わせた細やかな工夫をして、
その生活が「乱れ過ぎない」
様見守ってくれている。

私は、かなり重い知的な
障害を持つ人でも、「地域
で生活」することはそんな
に難しいとは考えていない。

しかしそのためには、国
の制度がどうであれ、利用
者の心の平安を保ちながら
その生活を支える支援者の
存在は重要だ。

支援者の「心」が「生活」
が疲弊した状況で、よい支
援を提供することは到底叶
わない。

障害を持つ人の「地域生
活」を支える制度の、更な
る拡充を切に願う。

職員紹介



秋本 聖子 (中央) メン、
ユニオンの世話人として、
メゾンで食事作りははじめ
て早13年。

趣味はハイキングや食べ
歩きと、韓流ドラマ。突っ
込みどころ満載で、西川さ
んと感想を言い合っては盛
り上がっているそうです。

おっとりしている反面、
小バエを素手で捕まえる俊
敏さも兼ね備えているとか。
おおらかな優しい人柄で、
いつも利用者や職員をあた
たく包み込んでくれる存
在です。

西川 孝子 (西) メン、
事務職や介護ヘルパーな
どを経て、現在メゾンで食

事を作ってくれています。
特技は外食で食べたもの
を再現して作ることに。また、
釣りやキャンプ、韓流スタ
ーの追っかけ、ジム通いな
ど、とてもアクティブな
日々を送っています。

ご本人いわく瞬間湯沸か
し器のように短気とのこと
ですが、今のところ沸いて
いる所は見たことがありま
せん。朗らかなトークで、
周囲を明るくしてくれます。

野村 一恵 (西) グランド、
世話人として入職して約
8年。今はグラウンドの食事
作りをしています。この仕
事の面白さを感じる瞬間は、
食堂で利用者さんの様子を
見ること。日々コロコロと
変わる表情を見て、「なんで
やろ？」と考えるのが楽し
みだそうです。

編集後記

▼昨秋、ある日中活動の事
業所旅行に参加しました。
小集団での貸切バスの旅行
は、とても楽しいものでし
た。▼それは旅行の行程や
料理が良いだけではありま
せん。どの場面でも利用者
さんたちの表情がとても活
き活きしていて、一緒にい
るのが楽しかったのです。

▼Aさんがシートベルトを着
けるのに苦戦していると、
隣のBさんが自然に手助け
する。Cさんの好みを知る
Dさんが、Cさんの好きそ
うなお土産を見つめる。そ
んな場面をたくさん見かけ
ました。さりげなくお互い
を労る姿は心温まります。

▼こうした雰囲気は、急に
出来るものではありません。
長年に渡る日々の積み重ね、
関係性があるからでしょう。

▼利用者さんが生き活きと
活動できるよう、私たちも
日々様々な角度でのアプロ
ーチを積み重ねたいと思
います。

(野々村・原)